令和6年度　市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

１　開催日時　令和７年（２０２５年）３月１２日（水）
午後１時３０分から３時まで

２　開催場所　市役所本館６１９会議室

３　参加者　放課後子ども教室、町内福祉村、地域教育力ネットワーク等での指導者　６人

４　テーマ　小学生の放課後居場所づくり

５　市長あいさつ

　皆さんこんにちは。市長の落合でございます。本日はお忙しい中、市長と語ろう！ほっとミーティングにご参加いただきありがとうございます。このほっとミーティングは地域の課題などについて、現場の皆様との対話を通じて市政に反映できればと、私が市長に就任以来ずっと続けてまいりました。

　市長の就任が平成２３年の東日本大震災直後でしたので、まずは地域防災の課題について、各自治会連合会の方からお話を伺いました。

　最近では、保育士さんの働きやすい職場づくりや、文化芸術について市民の皆様がどのように捉え、どんな活動をしたいのかなど、関係する方々と意見交換をしました

　更に、「子育てするなら平塚で」ということで、子育て世代のママにもお話を伺いました。

　今年度は、フレイルという高齢者の衰えの予防や、デコ活の推進について、直近では、公民館での活動に関する課題など、いろいろなテーマで意見を交わしました。

　本日は、皆さんに小学生の放課後のあり方、居場所づくりについて、お話を伺いたいと思っています。ご存知のように小学校入学時に、小１プロブレムとか、小１ギャップという、幼稚園、保育園から小学校に上がる時に、なかなか生活に馴染めず、場合によっては不登校になってしまうといった課題があります。それから、国では子どもの居場所づくりに関する指針が策定され、平塚市でも新しい総合計画の中に子どもの居場所づくり推進事業を盛り込んだところでございます。

　本日は皆さんに、それぞれの地域での子どもたちの学びや地域の人たちの交流、関わりについてお伺いし、今後、子どもたちの安心・安全をはじめ、放課後の居場所づくり、そして、社会への繋がりなど、いろいろとご教授いただきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

６　主なミーティング内容

【司会】

　皆さんこんにちは。本日、司会を務めさせていただきます。湘南NPOサポートセンターで理事長をしています。いつもは、崇善公民館の２階にありますひらつか市民活動センターで市民活動を応援するような活動をしています。

　今日は先ほどご案内があったように、日頃から地域で、放課後の小学生を対象に学習や文化活動、そして地域住民との交流活動などを支援する取り組みを行っている皆様にお集まりいただいています。小学生の放課後居場所づくりをテーマに意見交換をしていきたいと思います。

最初に、皆さんに自己紹介をしていただき、その後意見交換をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
それでは、お願いします。

【参加者】
皆さんこんにちは。やわた子ども村を２００４年に立ち上げて学童保育（以下「学童」）を開始し、２００７年からは放課後子ども教室も始め、学童と全児童対象の放課後こども教室を一体化して本日まで活動をしています。

【参加者】
港放課後子ども教室のコーディネーターをやっています。平成２８年７月から開始し、約１０年になります。放課後に小学校の体育館で活動しています。

【参加者】
吉沢寺子屋を担当しております。吉沢寺子屋は町内福祉村のふれあい交流部会に位置しており、町内福祉村ができた時に開始しました。
開始後、１０年になります。一時はコロナでほとんど活動ができませんでしたが、頑張って再開し、新しいやり方で月に１度開いています。

【参加者】
おかざき鈴の里でピノキオという学習支援活動をしています。皆さんのお手元に、去年発行した鈴の里の２０周年記念誌のピノキオに関わる部分を抜粋したものをお配りしています。
２００８年にピノキオの活動を開始し、コロナの時期もなんとか頑張って続けてまいりました。週１回土曜日午前中だけなので、今日のテーマである放課後ということだと、ピノキオの活動とは若干異なるかもしれませんが、関連する部分についてお話ができればと思います。

【参加者】
こんにちは。２０２２年から子どもの居場所学習支援金田の寺子屋を始め、３年目になります。小学生・中学生を対象として、毎回約４０人から約５０人が来ています。月２回の開催で、ボランティアの方は約２０人という状況です。よろしくお願いいたします。

【参加者】
こんにちは、横内子どもサポートネットワーク協議会、通称サポネットと呼んでいます。今日は会長の代わりに参加しています。よろしくお願いします。

横内では、週末の土、日に１０から２０近くのサークルが定期あるいは不定期に地域で活動しています。次世代に残さなければいけない和太鼓ですとかお琴ですとか、ほかには皆で楽しめる夏のイベントとしてキャンプを催しています。

【司会】
それぞれ、各地域で活動されている皆様に自己紹介していただきました。
それでは、これから意見交換をしていきます。日頃活動をしている中での課題を掘り下げていきたいと思います。
自己紹介の中で立ち上げから何年というお話がありました。それから何人くらいの方々が関わっているという話がありましたが、普段どのような活動をなさっているのかをもう少し細かく、そして、その中で抱える課題についてお話をいただきたいと思います。
まずは活動状況をもう少し細かくお話をいただきたいと思います。

【参加者】
年々子どもの数が減ってきており、横内小学校は今、１年生から６年生までは２クラスとなっていますが、来年度の１年生は１クラスになってしまいます。
今、横内団地を取り壊して新しく建て直しをしているので、もう何十年か先にならないと子どもの数が増えないという中、外国籍の子もいますけれども、みんなで1人の子どもも取りこぼさないような心構えで活動しています。マンネリ化を避けるため、昨年は、横内中学校の校庭をお借りして気球を上げました。
先程、１０から２０近くのサークルがあるというお話をさせていただきました。横内地区の先生方にご協力をいただきながら、全てボランティアで活動し、立派な太鼓やお琴もお借りしながら活動しています。
子どもたちだけが来るサークルもありますが、親も一緒に来ないと、子どもたちの教育にもプラスにならないのではないかと考え、間口を増やし親子で参加できるものを開催しているほか、未就学の子を抱えている家庭もありますので、みんなで協力しながらやろうという気持ちで活動をしております。
困っていることは、横内地区に公園がないことです。公園に行くとなると真土大塚山公園になります。この公園は学区外にあるので、子どもたちがなかなか行くことができません。横内子どもの家も遊具が壊れていたりして遊べない状況です。せっかくよい施設があるのに子どもが使えない、遊具が壊れている現状を少し考えていただけるとありがたいと思っております。

【司会】
ありがとうございます。まずは子どもの減少が大きなネックになっている。それから団地の取り壊しについて。これは大変気になるところですね。

【参加者】
団地の建替が終わるのは３０年くらいかかるようです。

【司会】
ありがとうございます。親子で参加してくれる仕組みを作りたいという新たな提案もあり、素敵だなと思いながら聞いていました。

【参加者】
２０２２年にスタートした時には大体２０人ぐらいの子どもたちでしたが、どんどん増えて今は６０人くらいです。勉強だけできればよいのではないかという人もいますが、子どもたちが成長するためには家庭や学校だけでなく、いろいろな場所でいろいろな経験をすることが肝心ではないか、それが子どもの居場所ではないかと思い、頑張って活動しています。
人が増えると場所の課題がある他に、子どもの保険や、学習教材にかかる費用など、お金に関する課題があります。
地域には、お菓子やパンを安く供給してくれる企業もあります。学習の時には食べませんが、終わった後のご褒美として渡すと子どもたちが喜んで持って帰ります。
基本的には保護者に迎えに来てもらいます。活動の雰囲気を見てもらい、それが、子どもたちとの会話の話題につながればよいと思っています。
募集を含めて、いろいろなことで小学校は協力してくれ、地域の協力もあってこうした活動ができています。これからも続けていきたいと思っています。

【司会】
子どもたちの数が６０人くらいに増えているとのことですが、今、関わっている大人のボランティアの方は何人くらいいらっしゃいますか。

【参加者】
今は２０人くらいです。学生も結構来てくれています。東海大学や県立看護大学校の学生が来てくれたり、先日は、どこから聞いたのかわかりませんが、大学生が見学に来てくれたり、こうした方々のご協力をいただきながら活動しています。
また、地域の方々や高齢の方にも協力いただいています。私も高齢者ですが、生きがいを感じられる自分の居場所でもあります。
子どもたちと接することによって、学生も地域の方も高齢の方も、みんなが生き生きとして成長できているのではないかと感じています。

【司会】
　ありがとうございました。人数が増えてくると場所の問題やお金の問題が出てくると伺いました。
　続きまして、ピノキオさん、長く活動されているからこその課題があるのではないかと思いますが、いかがですか。

【参加者】
　私は最初から関わってはいませんが、課題は大きく２つあると思っています。他の団体の方もおっしゃっているように、まずは、お子さんの参加者数の減少が課題となっています。
　ピノキオは岡崎小学校に通っているお子さんがメインで、当初は７０人ぐらい、児童の約２割のお子さんが通っていた時期もありました。今は約４０人弱と１割に減ってきています。その要因は、よく分かりませんが、お子さんが多いご家庭の利用割合が高いと感じています。
　我々は３００円の会費をいただいて、ドリルの購入等に使わせていただいています。国語・算数がメインですが、ドリルだけでは足りないお子さんには、別にプリントを用意するなどしています。勉強をメインとしているところがご家庭にも支持されているのではないかと捉えています。参加者数が減ってきてはいますが、３人目のお子さんが小学校を卒業して、その下のお子さんが活動に参加してくるというようなご家庭もあります。
　お子さんの数に関しては宣伝しかないと思っているので、岡崎小学校と密に連携して対応していきたいと考えています。
　もう一つの大きな課題は教える側である大人のメンバーの世代交代についてです。発足してから１０数年、半分以上はその当時からのメンバーです。私は途中から入りましたが、午（ウマ）歳の人が中心で、私も後期高齢に入っており、最高齢の方は９０歳を超えています。世代交代については、どう対応していこうかと皆さんに会うたびに話題となっています。
　ただ、ピノキオでは、お子さんに対して自分たちが担当して勉強の面倒を見ているので、他の方に任せたくない気持ちも生じています。それが、他の方々が参加しにくい雰囲気を作ってしまっているのかもしれません。
　その他の活動としては、夏休みに理科実験と称して、講師が題材を持ち寄ってテーマを決めて開催したほか、先日は、朗読会を実施しました。算数は正解があるので教えやすいですが、国語は解釈に個人々々の見解があることと、ドリルが漢字だけなので、少し工夫し、朗読会として、教科書の中からお子さんが選んだ部分を朗読する形で実施してみました。お子さんたちは、普段、人前で声を出すことがないので勇気が必要だったと思いますが、お子さんによっては劇中の人物になりきったような朗読でした。この朗読会は保護者にも参加をご案内し、１０人くらいに来ていただき大盛況となりました。

他には、ピノキオが主体ではありませんが、夏休み子どもサロンとしてそうめん流し等を実施しました。その際には小学校の先生にも来ていただいています。
もう一つ、指導する大人には様々な人生経験がありますので、自分たちの経験を子どもたちの前で話す機会を設けています。指名して順番に話をしてもらうことで、指導する側の大人たちの刺激にもなると感じています。

【司会】
私は、普段、市民活動を支援する活動をしていますが、２０年くらい活動していると、世代交代がなかなかうまくいかない団体があります。そうした団体と同じ課題を抱えていらっしゃるのだと思って聞いていました。

【参加者】
我々は、立ち上げ時のメンバーが半分以上おり、世代交代については、自治会とか、いろいろな団体も同じ課題を持っているのかもしれません。

【司会】
多くの団体の皆さんが共通する課題を持っているのかもしれないですね。では、次の方に伺います。

【参加者】
コロナ前は月２回開催していましたが、今は月１回の開催となっています。吉沢の寺子屋の特徴は、大学生がお兄ちゃん、お姉ちゃんとして子ども目線で一緒になって遊んで勉強してという家族のように接していることだと思っています。
今、神奈川大学のキャンパスが移転して、学生のサークルだったＢＢＳ会のメンバーもいなくなりました。ですが、この会のＯＢ、今は３０歳くらいの方々ですが、この方たちが頑張っていろいろな手配をしてくれて、そのおかげで活動ができています。
そのほか、去年から更生保護女性会の方たちが一緒になって参加して、手助けしてくれています。
活動の内容は、主に国語と算数で、我々が作ったテキストを使って学習しています。また、宿題はみんなで一緒にやっています。
学習した後は、遊びの時間となります。遊びについて以前は細かく企画しましたが、かえって子どもたちが自由に遊べないのではないかと思い、今は公民館のホールを借りて自由に遊ばせています。ボールを持ったら、結構暴れるように遊んでいますが、遊びながらも、上級生が下級生に気を遣うなど、配慮することを学んでいるので、それもいいと評価をしています。
運動が苦手なお子さんは、オセロなど頭を使うゲームをしたりしています。

先ほども申し上げた吉沢の特徴として、学生を中心として若い世代と遊びができるところで、ボランティアである学生の名札を作っていますが、子ども達が苗字ではなく、名前にちゃん付けや呼び捨てで呼んだりするほど一緒に夢中になって遊んでいます。

遊びは学生に任せて、我々高齢者は後ろで見ています。

他には、季節に応じてハロウィンパーティーや、クリスマス会、卒業式を開催したり、自然が豊かなので自然観察会を開催したり、地域の方が講師となって絵画教室や簡単な農業の話をしたりするなど、地域の良さを生かしたイベントを行っています。

また、今までの実績の賜物だと思いますが、寺子屋の卒業生が大学生になって活動を手伝ってくれています。今年で２回目になりますが、卒業式の卒業証書を作ってくれます。デザインがなかなか面白いのと、お子さん一人一人の名前を間違えないよう慎重に作ってくれます。更に、寺子屋通信というのを作っていますが、これも彼らが作ってくれるようになりました。我々が作るより斬新で奇麗なんです。

そのほか、１年生の時から寺子屋に通っている不登校のお子さんがいます。小学校の先生が来ると隠れてしまったりするのですが、寺子屋では自由活発に過ごしています。他の世代も一緒になって遊ぶことがよいのではないかと感心しています。

先程、他の団体の参加人数のお話しもありましたが、実際にお子さんの数が減っています。小学校では学年毎に１クラスしかない状況です。このような状況で我々の活動にご理解をいただき、預けたいと思っていただけるような勧誘に努めています。先日は保育園へ行って年長さんにお菓子と一緒に保護者宛の手紙を配りました。

これからも小学校に行って、ご家庭に勧誘のお手紙を配っていただけるようお願いしたいと考えています。また、できれば学校で機会を設けていただいて、保護者の方々に我々の活動の紹介ができないかと考えているところです。

このような状況で、地域の人たち、おじいちゃん、おばあちゃんも含め、地域ぐるみで携わっていくことが大切なのではないかと思っています。

【司会】

ありがとうございます。平塚市外のＢＢＳ会の学生が通ってくださるということですけれども、彼らに対しての交通費はどうされていますか。

【参加者】

交通費は出しています。ＢＢＳ会も工夫して予算を使ってくれているみたいです。

【司会】
　ありがとうございます。長年の活動の中で地域ぐるみで関わることが必要だというお話しがありました。また、学習支援だけでなくお子さんたちの居場所となるような活動に重点を置いていることがよくわかりました。
　課題は、お子さんの数が減っていること、そして地域の皆さんの協力体制の構築ということでしょうか。
　町内福祉村が母体となっていますが、多くの方々のご協力やご理解が必要だということでした。

【参加者】
　今回のテーマが放課後子ども教室ということですが、そもそも、港地区においては港スポーツクラブという総合型地域スポーツクラブがあります。これが２００６年に平塚市スポーツ課の委託事業として、toto の助成金を活用して開始し、現在も継続しています。その時のスポーツ課の責任者の方が社会教育課へ異動して、その方から港地区で放課後子ども教室をやっていただけないかという話しが現会長のところにあったので、検討委員会をつくって、平成２８年の７月から始めたものです。
　場所は、港小学校の体育館で、放課後から一般開放が始まるまでの時間をスポーツクラブに開放していただき、学校の大きな協力によって、使用させていただいている状況です。
　今年度は１６７人のお子さんが登録され、内訳は学童が１２２人、一般のお子さんが４５人登録していただいています。活動日には学童さんも一般のお子さんも来ています。
　学童さんに関しては港地区では３つ、アルファ、ベータ、ガンマという団体があり、学童の１２２人と一般の４５人が一遍に集まるとオーバーフローしてしまうので、学童さんは週替わりで順番に来ていただく形になっています。
　活動は、月曜日にバドミントン教室、水曜日に体育遊びということで体育館をお借りしてバドミントンや跳び箱、マット、肋木、フラフープなど体育館にあるものを使って遊んでいます。
　肋木は学校の体育の授業では使いませんが、肋木の下に大きなマットを敷いて、肋木を登って飛び降りる。安全に関して、多少リスクはありますが、自分たちが子どものころには高いところから飛び降りたかったということもあったので、人を適切に配置して危なくないようにやっています。１０年間大きなケガはない状況です。
　バドミントン教室は、東海大学のバドミントンの元総監督の方が週に１～２回、水曜日はほぼ毎週指導してくださっています。

保護者のご意見としては、安心して子どもを遊ばせる場所が欲しいということと、低学年は、先々にクラス替えがあるので、他クラスの子たちと触れ合わせたいという意向があるようです。

また、一般の児童からすると、学校内で学童のお子さんと友達になっても、放課後はみんな学童クラブに集まってしまって遊べないということで、水曜日の週１回ですが、場所を決めて触れ合える。そういう場の提供ができているようです。

自分たちのころは、子ども同士で誰々ちゃんのおうちで遊ぼうねという約束ができたけれども、今は子どもたちが約束した後、親同士の話しで「いいよ」ということにならないと遊べない、というような状況になっているようです。

これは、この活動を始めてみて初めてわかったことです。港放課後子ども教室では、活動を通じて、少ない日数ではありますが、友達同士が遊べる場を提供できているのではないかと考えています。

当初は一般のお子さんは来なくて、学童のお子さんだけなのではないかとの想定もありましたが、今は、先ほど説明した人数で遊んでいるという状況です。

港地区だけなのかもしれませんが、学年が上から下まで仲よく遊んでおり、トラブルがあっても自分たちだけでうまく折り合いをつけています。ある意味、大人よりも大人らしいという状況が見られています。

施設面では小学校の多大な支援により、場所は確保できています。通常は授業でしか使えない体育館を使わせていただいています。

課題としては、人の問題です。今、支援してくれている地域の方が３～４人いらっしゃるんですが、実は私の妻も手伝っております。水曜日の時には受付をしたり、子どもたちが来ると麦茶を配ったり、オセロやトランプの相手をしたり、ＵＮＯの相手などをしてくれています。

最終的には私の後継者が誰になるのかというところです。

日程の設定や会計関係などを、私が一身に引き受けている状況です。

平日の運営ですので、現役のお父さん、お母さんの引き受け手がありません。

皆さんも同じ状況でしょうけれど、自分がいつまで続けられるのか、これが今のところの最大の課題です。

【司会】

１６７人というのは、港小学校全体の人数ですか。

【参加者】

もっと多くて、全体では６００人くらいで、１学年１００人くらいです。今日、中学校の卒業式で、卒業生９９人と言っていましたので、１学年で、そのくらいだと思います。

【司会】
港放課後子ども教室の参加者が１６７人ということですね。

【参加者】
学童さんに関しては、港スポーツクラブの授業があるときは、外遊びとして参加しています。学童さんは毎日外遊びをしていますので、港放課後子ども教室があるときには、その延長線上で参加している形です。子どもと一緒に指導員さんも３～４人来てくれています。

【司会】
月会費というのは、どうしていますか。

【参加者】
年間の経費としてはいただいておらず、登録費として年間２００円をいただいています。また、スポーツ保険に入りますので、１人８００円で合計１０００円になります。２００円については、スポーツ保険のシステム利用料が１４０円かかります。平塚市からの支援では、その持ち出しはできないことになっていて、港放課後子ども教室の持ち出しになるといけないので、保護者から２００円をいただいています。

【司会】
ありがとうございます。学校が終わってから、民間のスポーツクラブに塾のような形で通うというふうに考えたら非常にかっこいいですね。

【参加者】
家に帰らないで、放課後にそのまま体育館に来られるという運営をしています。

【司会】
そこが保護者にとっては非常にありがたいですね。ただ、課題は、これだけ多くのお子さん、支援員さんに対して３～４人ですか。

【参加者】
学童の支援員さんが３～４人と一般のお父さんが３～４人来ていただいています。
内訳としては、ＰＴＡの元会長さんであるとか、スポーツ団体の方が来てくれています。

【司会】
後継者の問題は、きっと皆さん同じなんでしょうね。

では、最後になりましたが、やわた子ども村について、よろしくお願いいたします。

【参加者】
やわた子ども村は先程説明しましたように設立してから１９年くらい経っています。
放課後子ども教室の方は、今、子どもたちはコカリナだとか、絵手紙や囲碁将棋、お花などの放課後のクラスのようなものがあって、だいたい１６５人くらいが登録しています。
地域の人に２５人くらい登録していただいて、子どもと関わりながら教室風に活動しています。２０年近い年月の中で、自動的に世代交代しているような形になっています。
学童も放課後子ども教室も八幡小学校の校内で完結しています。全校生徒３９０人の学校で、今年度の４月で学童は１１５人くらいの申し込みになっています。年度末が近づいてきた２月末の状況でも９０人くらいいますので、八幡小学校の４分の１くらいの人数が学童に来ている状況です。
コロナ前は放課後子ども教室の活動場所を確保できていて、自由に使えるようになっていましたが、最近では、その場所を学童に譲ってしまったので、今は家庭科教室や準備室等を利用して活動しています。
放課後、週１～２回、いろいろな教室で開催しています。スペースの問題があるので、例えば絵手紙教室を２クラスにしてみたり、囲碁教室では飽きてしまったお子さんが飛び回っているような状況です。
２５人が教える側で、５人くらいが運営する側の人数で出欠をとったり、用具を準備したりしながら活動しています。
大人の感想を伺うと、お子さんが相手なので、「まぁ疲れる」というのがほとんどです。
夏休みはペットボトルのロケット飛ばしや、親子で参加できるような書道教室に結構ニーズがあり、書道教室では、親も必ず来て教えてもらっている状況です。
日曜日は学童の部屋を使えて、場所が確保できるので、夏休みだけでなく土日のイベント開催ということも行っています。
小学校の中で活動しているので、放課後は学童のお子さんたちがグラウンドで遊んでいます。そこには学童の指導員さんが６人くらいいて、学童以外のお子さんも参加したりしています。なので、職員の配置もできて広い学校を有効に使えているのではないかと思っています。
長年やっていますが、今までに事故は校庭の朝礼台を使って鬼ごっこをしていて、台から落ちて足首をケガしたことくらいです。

八幡小学校は、今後まだ２～３年は子どもが増えていく予定です。学校の教育活動の支障となるようなことはできないので、活動場所等をどうやって運営していくのかが課題だと思っています。

人の問題については、開設当時、自治会とＰＴＡが連携して、地域の人たちが手伝ってくれるという環境で始まりました。当時６５歳の人は８５歳になっており、当時の役員で残っているのは私ともう一人、村長だけです。入れ替わって入ってきた人たちも、若干お疲れになっている状況だと感じています。学童と一緒に活動しているので、学童の指導員の手を借りることができていますが、人の確保に関しては、やはり課題であると感じています。

子どもたちは、遊びの中で自発性とか社会性とか得意不得意とかを学び取っているので、環境だけ作ってあげて、安全管理はするけれども、介入はしないという支援方法をとっています。

【司会】

やはり場所と人の問題もあげられましたけれども、寺小屋さんも含めて子どもたち同士が学びの中で助け合う・支え合うといった自発性が育まれているのかなと思いました。

では、ここで市長にこれまでの感想をお伺いしたいと思います。

【市長】

皆様が運営をされる中で、お子さんの居場所の確保につきましてご苦労を重ねながらご指導いただいている状況をお伺いしました。改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

お子さんの放課後の居場所づくりに関しましては、先程も申し上げましたように国が指針を策定したほか、学校の教育の仕方や、保護者の考え方など、いろいろなものが昔と変わってきている中、地域の皆様のお力を借りながら子どもたちを支えてもらう仕組みが必要になってきて、皆様にお骨折りいただいている状況だと思っています。

今、お話を伺いまして、学校を利用しているところはともかく、公民館や町内福祉村など、場所の確保ということについて、我々もしっかりと協力をしていかなければいけないと思いました。

今、吉沢地区の例をお伺いしたところですが、ここで四之宮公民館が新しくなりましたが、これまで、このほっとミーティングで公民館長さんに集まってもらい、公民館のあり方についてお話を伺ったこともありました。

皆様方の活動や、学童の活動もありますが、公民館もお子さんの居場所として気軽に立ち寄れるような環境にしていかないといけないのではないかというご意見もありました。こういったことも含めて公的な施設を使ってスペースを確保することについて、皆様と一緒に考えていけたら有難いと思っています。

学校で活動されている皆様のお話を伺って、皆様が活動しやすいようにといいますか、基本的にはお子さんが過ごしやすいスペースをどう作っていくかということが大切だと思いますので、今後、学校や教育委員会にも、皆様のお話しをしっかりと伝えていきたいと思います。
もう一つの課題である人材の確保につきましては、町内福祉村など、どこでも同じ課題を持っていると感じています。
今、平塚市では、「あったかひらつか」というスローガンとロゴを使って、あたたかいまちづくりに取り組んでいるところです。
平塚は地域の方々が子どもたちも含めてあたたかい関係づくりをしてくださっているまちだと私は思っています。今、ここにいらっしゃる皆様は、現にそういう活動をされている方々だと思いますので、今後も、あたたかく子どもたちを支えていただければと思っています。
人材確保につきましては、皆様の活動を紹介することで、引き続いて活動していただける方が出てくるよう行政としてもアピールしてまいりたいと思います。
次に、予算についても厳しい状況があるのではないかと思っています。
放課後児童クラブの取り組みとして県の地域学校共同活動推進事業費補助から活動経費が出ているところもありますし、町内福祉村へ充てたお金の中から活動経費を出していただいたり、金田地区については市民活動の補助金を活用していると伺っています。
いくつかの市の補助メニューから活動費を出させていただいていますが、子どもの居場所づくり・学習支援の中で、どういうところが肝なのかということもあると思いますので、ご意見をいただきながら検討させていただければと思っています。
予算の関係もありますが、今日は皆様の課題をお聞かせいただき、皆様の支援の力になれるようにできればと考えています。

【司会】
ありがとうございました。それぞれ皆さんの活動の内容ですとか、課題は共有されたということでよろしいでしょうか。
今、市長からお話がありましたように、この後は、皆さんの活動の中で、こういったものが必要だとか足りないとかというお話を伺いたいと思います。

【参加者】
こういうものが欲しいというのは特にはありませんが、とにかく場所の確保が課題です。
先程も言いましたが、学校というのは、お子さんがすぐに来られる場所で、放課後の居場所という観点からも安心できる場所だと思っています。
学校から公民館へ移動したりするのは大変なので、学校のご理解をいただいて学校を使えるのが一番だと思っています。

お金は、今、この活動のためにいただいているのは６０万円です。
必要なものは保護者に負担していただいて、運営できている状況です。
やはり大きいのは、場所の問題。今、八幡小学校はコミュニティスクールといって、昔の遊びを学校の教育活動の中でやるとか、授業の中でも子ども村との交流があります。先程、市長から公民館のあり方のお話がありましたが、市長に一肌脱いでいただいて、学校のあり方もご検討して、学習も遊びについても、地域だけでなく学校にもご協力をいただけるような仕組みが作れないものかと思います。
給食センターの跡地を使えないかと狙っています。

【参加者】
課題についてですが、場所に関しては先程お話ししたように小学校さんからの多大なご協力をいただいていて現状では大丈夫です。人に関しても私が健康であれば今のところ大丈夫です。お金に関しては、今年度の集計の結果、プラスマイナス０（ゼロ）で、これ以上お金をいただいてもなかなか使いきれない状況で、今の規模がちょうどいいのかなと考えています。

【参加者】
予算につきましては、町内福祉村の方からいただいているので大丈夫です。
心配なのは、学生に協力をしてもらっていますが、学生の持ち出しが生じていないか、少し心配しています。
皆さんのお話を伺って、うちの地域はお子さんの数が２０人くらいしかいないので、規模が違うと思っています。
他の地域の方々が会員制で行っているのか、どのような勧誘をしているのかがわからないのですが、うちは会員制で運営しています。それと学校が直接関わってくることはありません。
学童や他の関係団体との意思の疎通は必要だと感じています。
今日、小学校の校長先生と話す機会がありましたが、放課後の居場所ということで情報の交換は必要だなと思いました。
皆さんのお話を伺って、目から鱗が落ちたような印象です。

【参加者】
運営に当たっては、市の社会福祉協議会、地区の民生とか地区社協からお金をいただいて運営しています。
お話を伺っていて、例えば港地区だと須賀の寺子屋などとの関係性はどうなっているのか、今、学習支援とか子ども食堂とか、子どもに関するものがたくさんある中で、自分の地域では、そういう場所を回って、どんな活動をしているのかは掴んでいますが、今後、そういうところとの連携が必要になってくるのではないかと感じています。

子ども・子育てネットワーク協議会というものを社会福祉協議会でつくっていますが、子ども食堂とか学習支援とかいろいろな団体が集まって情報交換をしていますが、昔から活動している団体は、多分、そういう場に参加していなかったりします。今後、市全体として、子育てに関する情報交換の場が必要になってくるのではないかと感じています。

【参加者】
先程もお話をしましたが、伝えたいことはたくさんあります。
子どもたちと一緒にやりたいことはたくさんあるので、助成金は、たくさんいただけるとありがたいと思います。ご家庭からはお金をいただいていません。安全会の４００円を負担していただいているほか、何かを作るときに材料費が必要になる場合にはその費用をご負担いただき、安全第一に活動しています。
以前は子ども会がありましたが、今はその役割を子どもサポートネットワークが担っています。
町内福祉村が毎週金曜日に１年生から中学生までを対象に「宿題教室」を公民館で行っており、地域の方や卒業された方が教えてくれています。ほかに、日本語がままならないお子さんの支援をしている町内福祉村もあります。
このように横内地区では地域全体で支援している状況です。

【参加者】
まず、場所の件ですが、ピノキオでは最盛期に子どもが７０人くらいいましたが、その頃はギュウギュウに詰めて行っていました。
コロナの時期は席を一つおきに座ってもらうなどの工夫をして、今もその状態で行っていますので、もし子どもが増えても当面は大丈夫と思っています。
予算の方は、町内福祉村からの費用と、一人３００円いただいている中で夏の理科実験などの費用も賄っている状況です。町内福祉村全体としてはいろいろと要求したいことがあるのかもしれませんが、ピノキオとしては予算面では特にない状況です。
ただ、我々の活動の中で一番の課題は、メンバーの高齢化です。
ピノキオでは１０年とか２０年前に卒業された方が常勤ではありませんが登録していただいています。それ以外のメンバーは、ずっと関わったままで、いろいろな方にお声かけはしていますが、毎週土曜日の午前中、先ほども説明しましたようにお子さんの担当を決めて対応していますので、休みづらい状況となってしまっていて、後継者のハードルを上げてしまっている部分はあります。
非常勤で来てくれている卒業生にはボランティアでお願いしていますが、今後は卒業生に若干の謝礼を支払って来ていただくという方法もあるのではないかと内部で議論をしていますが、結論は出ていません。
ですので、続けるための課題の対応については厳しいものがあります。

他には、先程も言ったように、お子さんの数が少なくなってきているのも課題です。
岡崎小学校とは連携をしていますが、自助努力としてもう少し連携を深めてアピールしていかなければならないと思っているところです。

【司会】
ありがとうございました。いろいろな取り組みの中で、様々な課題をお示しいただき、本当にありがとうございました。
もうそろそろ時間ですけれども、子どもの不登校が日本全国で３０万を超えています。
その１つの要因として体験格差という言葉を皆さんご存じと思います。地域の中で体験ができるような場所というものが本当はもっと必要ではないかと考えますし、それには地域と学校との連携がすごく必要だとも思います。
最後に市長からお言葉をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

７　市長によるまとめ

【市長】
本日は、現状も含めてのお話をいただき、感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。
皆様のお話にもありましたとおり、子どもの数が減っています。昭和５８年、１９８３年ぐらいが一番多くて、小学校２８校、中学校１５校になったときです。小学校・中学校併せて約３万６千人です。今は半減です。小学生が約１万２千人、中学生が約６千人です。こうした時代の中、平塚市は様々な施策を展開した結果、１０年続けて人口の転入超過ではあります。ただ、その数で喜んではいられません。出生数は依然少なく、子どもの数が大幅に増えていくことは難しい状況です。
今、「体験格差」というお話がありましたが、子どもたちにはいろいろな体験を通して健全に育っていただきたいと思っています。
私は農家の生まれで、自然に囲まれいろいろな体験をしてきました。その体験が今の自分の生き方に反映されていると思っています。
今は、自然も含めた体験というのがなかなか難しい時代です。社会における人間関係を学ぶ上で、地域の異年代の方々が関わり合い、様々な体験ができる皆様の活動は、子どもたちにとって大きな大きな力だと思っています。
皆様には、日々ご苦労をいただき誠に恐縮ですが、平塚の将来を担う子どもたちの育成、居場所づくり、人間関係づくりのために、今後もご支援を賜りたいと存じます。

本日、いろいろとお話を伺い、場所や予算、人材確保等の課題については、行政が皆様の活動をＰＲするなど、我々にできる支援をしてまいりたいと考えております。

子どもの居場所づくりや、子ども食堂等の運営に関して、公的な部分では補助金の出し方など、いろいろな縛りがある中で、大変恐縮ですが、今、現に活躍をいただいている地域の皆様に対し行政がどのように支援できるのか、ご意見を伺いながら、皆様と上手く噛み合う体制を整えていく必要があると強く感じています。

今後も、皆様のお力添えをよろしくお願いしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。